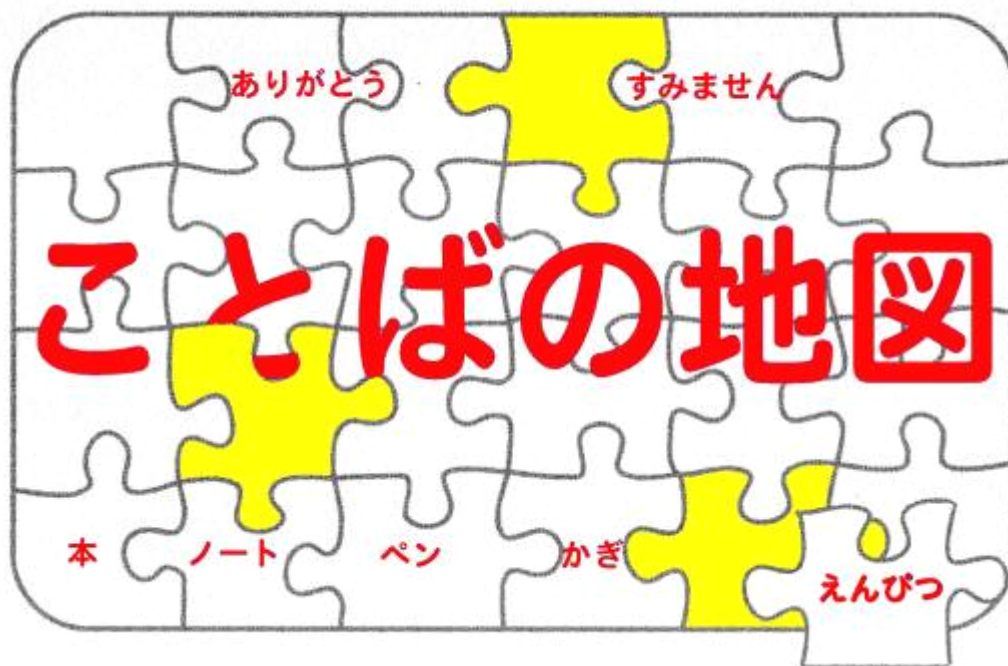


ボランティアによる地域日本語教室のための



なまえ： _____

作成 松尾恭子 公益社団法人国際日本語普及協会 (AJALT)
犬飼康弘 財団法人ひろしま国際センター (HIC)
黒田類 財団法人ひろしま国際センター (HIC)
伊藤美智代 ひまわり 21 (広島県呉市)

イラスト 星マリコ 山下和代 皆川郁恵 長濱友子 黒田類

作図協力 小出賢二 鶴ヶ島国際交流協会(埼玉県)

2010年12月30日

「ことばの地図」は、改善を加え続けています。
常に進化し続けています。

2010年12月

はじめに

「ことばの地図」は日本語のゼロの段階の方に日本語で無理なく会話を進めていくための道筋を示したものです。私自身、日本語を初めて教えた時から30年間の試行錯誤の結果をここに記しました。もちろん皆さんは、相手に応じて順番や語彙を工夫してください。しかし最初のほうの提出順はこの順番がもっとも効果があったといえる順番をそのまま書きましたので是非この順番で試みてください。

また、地域には日本語を母語としない様々な方が生活しています。そういった方々全てに対応できる教材というのは、残念ながらありません。一方で、異なる言語、文化的背景を持つ人々が地域で共に生活をしていくことを考えたとき、片方が一方的に何かを押し付けるという形は、決して望ましいものではないように思います。それは、日本語学習の教材にも言えることではないでしょうか。

このような考えから、この教材は、「完成品」とはしませんでした。

ところどころ、絵や写真、言葉を加えながら練習できる空白を設けてあります。日本語を学習したい人、それを支援する人が協力して完成させていただければと思います。

上記のような理由から、この教材の使い方も自由ですが、以下のポイントや「使い方」を参考にしてください。

ポイント

1. 新しい情報は一つずつ伝え、具体的な写真、絵などを見せて理解を図ります。
2. 相手が発話できるように、発話したいと思わせるように、相手の心に沿ったまま少しずつ会話を進めていき、発話できたよろこびを共有しましょう。
3. こちら側の意図を、言葉を使わなくても表情やしぐさで表現し常に相手の表情を見て確認します。

最後に、「丁寧体」（です ます体）と「普通体」（だ体）について触れておきたいと思います。

一般的に最初は丁寧体で日本語学習が進められることが多いと思いますが、実際の町の中での普通の会話はほとんどが普通体で話されています。一般的に丁寧体は公の場所、年長者に使い、普通体は同年者や友人同士の間で使われています。このように使い分けを行うことが日本のコミュニケーション上の大きな特徴です。一方の丁寧体だけで学習を進めていくと、この状況がわからないまま学び続け、町の中の実際の会話を理解できないという問題が起きてきます。この問題について実際に学んでいる外国人市民からも声があがっています。両方を知っておかないと、その両方の使い分けや意味が理解できないという結果を生み出すのです。その場に応じて使い分けることが最終の目標であり、その段階まで到達することは難しいことです。

しかし、だからといって一方だけしか紹介をしないという方法では、この使い分けが存在することが理解できないまま、言葉の洪水の中におかれてしまうことになります。町の中では一般的に普通体を耳にすることが多いので、普通体というものが存在をしていること、それは友人間、親しい者の間柄では使うというこ

とを知った状態で、今学習しているものはそのどちらなのかを了解して学ぶことは日本語会話の全体を理解する上で大切だと考えます。そのために、普通体を紹介するのは初期のころから重要だと考えます。その存在を知ってもらうだけでも充分だと思います。

「ことばの地図」の中では丁寧体と普通体を随時提出していますが、地域の特性(方言など)も含め、皆さんには、相手に応じて必要な表現を紹介していただくと理解を早めることになると思います。

絵やイラスト、皆さん自身が新たに言葉を加えた「ことばの地図」が、最終的に、日本語教室で活動する日本人、外国人市民にとって、共に作り上げた世界で一つだけのオリジナルな日本語学習教材となることを願っています。そして、今後の学習あるいは生活の糧、地域づくりの一助となれば幸いです。

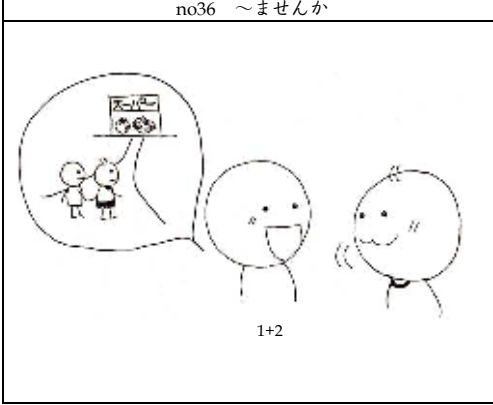
「ことばの地図」の使い方

「ことばの地図」は、図1に示したように、左側にイラスト、右側に「ことば」「メモ」が配置されています。イラストには、「1+2」のような数字が付けてあり、これは、右側の「ことば」と対応しています。

「ことば」は、ひらがな/カタカナ、ローマ字、漢字かな混じりを併記しました(ローマ字表記に関しては、原則として別表のローマ字表記のルールに従っています)。また、前に出てきた言葉であっても、各項目を学習する際に必要な言葉であれば、繰り返し提示しています。これは、少し休みが続いたり、ある程度学習が進んだグループに途中から参加したりしても、少しでもスムーズに学習活動に加わっていただけるよう配慮したためです。キャッチアップの参考となるよう、巻末にインデックスを設けています。

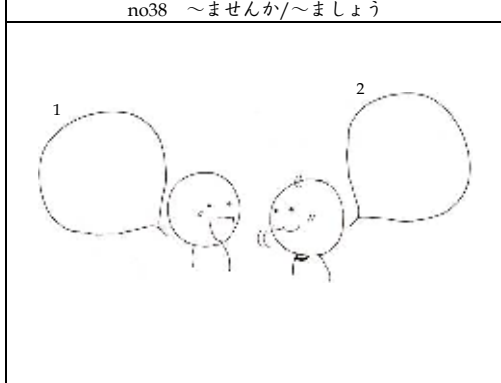
また、「ことば」の欄には、必要に応じ、図1で示したような活用等の文法上のルールが説明してある部分もありますので、参考にしてください。

図1

<p style="text-align: center;">no36 ~ませんか</p>  <p style="text-align: center;">1+2</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 55%;">ことば</th> <th style="width: 40%;">メモ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>いっしょに issyoni 一緒に</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>いきませんか ikimasenka 行きませんか</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="2" style="padding: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: right;">いき iki 行き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ます masu ます ↓ ませんか masenka </div> </div> </td> </tr> </tbody> </table>		ことば	メモ	1	いっしょに issyoni 一緒に		2	いきませんか ikimasenka 行きませんか			<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: right;">いき iki 行き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ます masu ます ↓ ませんか masenka </div> </div>	
	ことば	メモ											
1	いっしょに issyoni 一緒に												
2	いきませんか ikimasenka 行きませんか												
	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: right;">いき iki 行き</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ます masu ます ↓ ませんか masenka </div> </div>												

記録

図2

<p style="text-align: center;">no38 ~ませんか/~ましょう</p> 	<p style="text-align: center;">ことば</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>
--	---

記録

活動時には、最初に右側の「ことば」を隠し、イラストを見ながら場面や使われる表現を話してもらってもいいと思いますし、イラストと「ことば」を対応させながら、進めてもいいと思います。上昇調と下降調で意味が変わってしまい、誤解される恐れがある表現には、図1のように「メ」を付けています(普通体での疑問文などにも出てきます)。「ことば」の右側にある「メモ」には、母語訳の他、文法のルールや使う場面、方言でどのような言い方になるかなど、外国人参加者の必要な情報を自由に記入してもらえよう、スペースを作りました。

上記のような活動の後、実際に外国人参加者が体験する、あるいは必要とする場面に変更して練習できるよう、図2のように、吹き出し部分を空白にしたものを用意しました。実際に、絵や写真をその部分に入れるなどして、活用してください。

各項目の下部には、「記録」欄が記載されています。「記録」欄には、その部分を行なった日付を記入しておいてください。学習履歴になると思います。また、巻末の「ヒント🍷」には、活動をする上で参考になる練習方法のアイデアの一部や留意点を記しました。これらも参考にしながら活動を進めていただければと思います。

図3

<p>会話 13-1</p>	<p>ことば</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">1</td> <td>おにいさん/oniisan/お兄さん どこ/doko ～に/~ni います/imasu ～か/~ka</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>ブラジル/burajiru ～に/~ni います/imasu</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>あに/ani ～は/~wa プログラマー/puroguramā ～です/~desu</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>サッカー/sakkā ～が/~ga すきです/sukidesu/好きです</td> </tr> </table>	1	おにいさん/oniisan/お兄さん どこ/doko ～に/~ni います/imasu ～か/~ka	2	ブラジル/burajiru ～に/~ni います/imasu	3	あに/ani ～は/~wa プログラマー/puroguramā ～です/~desu	4	サッカー/sakkā ～が/~ga すきです/sukidesu/好きです
1	おにいさん/oniisan/お兄さん どこ/doko ～に/~ni います/imasu ～か/~ka								
2	ブラジル/burajiru ～に/~ni います/imasu								
3	あに/ani ～は/~wa プログラマー/puroguramā ～です/~desu								
4	サッカー/sakkā ～が/~ga すきです/sukidesu/好きです								
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">記録</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 20px;"></td> <td style="width: 50px; height: 20px;"></td> </tr> </table>		記録							
記録									

図4

<p>会話 13-2</p>	<p>ことば</p> <div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div>				
<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">記録</td> </tr> <tr> <td style="width: 50px; height: 20px;"></td> <td style="width: 50px; height: 20px;"></td> </tr> </table>		記録			
記録					

「ことばの地図」には、ある一定の項目を行なった時点で「会話」が用意してあります。この「会話」には、ここまでの項目を使ってできる会話の例が示してあります。








左側には、会話の内容や状況を表すイラストがあり、会話が進む順序が数字で示してあります。右側の「ことば」の欄には、イラスト内の数字に対応させる形で、これまでに学習した項目を中心に、各会話で必要となる表現が挙げてあります。できるだけ自然な会話になるように配慮していますが、この通りにしなければならないというわけではありません。あくまでも会話練習のためのヒントと考え、地域の特性に合わせて変更を加えていただければと思います。

また、各項目の活動同様、図4に示したように、会話の部分にも実際に外国人参加者が体験する、あるいは必要とする場面に変更して練習できるようにしてあります。

地域の日本語教室においては、過去の学習経験も様々であり、どこから学習を始めるのかを判断するのも難しい課題だと思われます。そういった、どこから学習をスタートしていいか判断が難しい場合には、この「会話」から始めるのも一つの方法でしょう。イラストを見ながら会話をしてもらい、適切な会話ができれば、そこまでの項目はある程度理解できていると判断し、言えなかったところがあれば、その部分を使って活動していくという方法です。

最初から最後まで、全てする必要はありませんので、外国人参加者の様子や必要性を検討しながら活動を進めていってもらえればと思います。

図5

index		
ことば	【あ a】	no
あ/a		90
ああ/ā		84
アイスクリーム/aisukuriimu		13・25・26・72・76
あいます/aimasu/会います		71・79
あした/ashita/明日		31・34・51・79・83
あたたかいです/atatakai desu/温かいです		21・22
いる/iru		59・63
いる/iru		59・63
～/～e		17・34・35
(でんし)レンジ/(denshi) renji/(電子)レンジ		6・11

巻末に付けたインデックスは、図5に示したとおり、左側に「ことば」中央に可能な限りイラストを配し、右側に項目「No」が記してあります。また、上昇調か下降調かで意味が変わってしまう表現には、上昇調になる場合に「ノ」を付け、下降調になる場合とは別にして項目立てをしました。

さらに、「～へ」のように、ひらがなでは「へ」と表記しつつも、発音上は「e」となるようなものに関しては、「あ行」「は行」両方に記載しました(「は」や「を」も同様の措置をとっています)。また、「電子レンジ」のように、日常的に「電子」が省略されることが多いものについては、省略される部分を()内に入れた上で、「た行」「ラ行」両方に記載しました。

いずれも外国人参加者が、より容易に語彙を検索できるように配慮したためですが、絵を見ながら楽しく復習したり、単語帳のようにお使いいただくのもいいかもしれません。

以上、この教材の基本的な構成や使い方の説明を記しましたが、冒頭にも触れたように、この教材の使い方は「自由」です。外国人参加者の様子や必要性、趣味嗜好にあわせてご利用ください。

この教材が、外国人参加者の皆さんの生活支援、地域の人々とのコミュニケーションの促進、深化に、少しでも貢献できれば幸いです。

ローマ字/rômajī/ローマ字

ひらがな/HIRAGANA

あ	い	う	え	お
a	i	u	e	o
か	き	く	け	こ
ka	ki	ku	ke	ko
さ	し	す	せ	そ
sa	shi	su	se	so
た	ち	つ	て	と
ta	chi	tsu	te	to
な	に	ぬ	ね	の
na	ni	nu	ne	no
は	ひ	ふ	へ	ほ
ha	hi	fu	he	ho
ま	み	む	め	も
ma	mi	mu	me	mo
や		ゆ		よ
ya		yu		yo
ら	り	る	れ	ろ
ra	ri	ru	re	ro
わ				を
wa				o
ん				
n				

が	ぎ	ぐ	げ	ご
ga	gi	gu	ge	go
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
za	ji	zu	ze	zo
だ	ぢ	づ	で	ど
da	di	du	de	do
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ba	bi	bu	be	bo
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
pa	pi	pu	pe	po

きや	きゅ	きよ
kya	kyu	kyo
しや	しゅ	しよ
sya	syu	syo
ちや	ちゅ	ちよ
cha	chu	cho
ひや	ひゅ	ひよ
hya	hyu	hyo
みや	みゅ	みよ
mya	myu	myo

ぎや	ぎゅ	ぎよ
gya	gyu	gyo
じゃ	じゅ	じよ
ja	ju	jo
ぢや	ぢゅ	ぢよ
dya	dyu	dyo
びや	びゅ	びよ
bya	byu	byo
りや	りゅ	りよ
rya	ryu	ryo

カタカナ/KATAKANA

ア	イ	ウ	エ	オ
a	i	u	e	o
カ	キ	ク	ケ	コ
ka	ki	ku	ke	ko
サ	シ	ス	セ	ソ
sa	shi	su	se	so
タ	チ	ツ	テ	ト
ta	chi	tsu	te	to
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
na	ni	nu	ne	no
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
ha	hi	fu	he	ho
マ	ミ	ム	メ	モ
ma	mi	mu	me	mo
ヤ		ユ		ヨ
ya		yu		yo
ラ	リ	ル	レ	ロ
ra	ri	ru	re	ro
ワ				ヲ
wa				o
ン				
n				

ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
ga	gi	gu	ge	go
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
za	ji	zu	ze	zo
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド
da	di	du	de	do
バ	ビ	ブ	ベ	ボ
ba	bi	bu	be	bo
パ	ピ	プ	ペ	ポ
pa	pi	pu	pe	po

キャ	キュ	キョ
kya	kyu	kyo
シャ	シュ	シヨ
sya	syu	syo
チャ	チュ	チョ
cha	chu	cho
ヒャ	ヒュ	ヒョ
hya	hyu	hyo
ミャ	ミュ	ミョ
mya	myu	myo

ギャ	ギユ	ギョ
gya	gyu	gyo
ジャ	ジュ	ジョ
ja	ju	jo
ヂャ	ヂュ	ヂョ
dya	dyu	dyo
ビャ	ビュ	ビョ
bya	byu	byo
リャ	リュ	リョ
rya	ryu	ryo

アー	イー	ウー	エー	オー
â	ii	û	ê	ô

ティ	ざっし
thi	zasshi

れい/rei/例

おはようございます ohayôgozaimasu	あした がっこう へ いきます ashita gakkô e ikimasu	いいですね iidesu ne
えいご で なん ですか êgo de nan desuka	ハンバーガー を かった hanbâgâ o katta	パーティー に いきます pâthii ni ikimasu

※「ことばの地図」で表記されているローマ字のルールです。ただし、一部例外もありますし、学習者の母語によって異なる発音になる場合がありますので、口頭で確認しながら進めてください。